

# 感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第37週 (9月9～15日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

## ●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
<b>[1類]</b>		
(報告なし)		
<b>[2類]</b>		
結核	245	10787
<b>[3類]</b>		
コレラ		2
細菌性赤痢	5	58
腸管出血性大腸菌感染症	142	2503
腸チフス		31
パラチフス	1	5
<b>[4類]</b>		
E型肝炎	4	379
A型肝炎	4	107
エキノコックス症		8
エムポックス <sup>1)</sup>	1	16
オウム病		3
回帰熱		10
Q熱		6
コクシジオイデス症		2
ジカウイルス感染症	1	2
重症熱性血小板減少症候群	1	93
ダニ媒介脳炎		2
チクングニア熱		3
つつが虫病	1	111
デング熱	6	171
日本紅斑熱	5	295
日本脳炎	2	4
ブルセラ症		4
ポツリヌス症		4
マラリア	3	36
ライム病		22
類鼻疽		2
レジオネラ症	81	1594
レプトスピラ症	3	19
<b>[5類]</b>		
アメーバ赤痢	5	381
ウイルス性肝炎 <sup>2)</sup>	6	155
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 <sup>3)</sup>	41	1497
急性弛緩性麻痺 <sup>4)</sup>	1	33
急性脳炎 <sup>5)</sup>	3	389
クリプトスポリジウム症		20
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	113
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	1492
後天性免疫不全症候群	11	700
ジアルジア症	2	29
侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	465
侵襲性髄膜炎菌感染症		38
侵襲性肺炎球菌感染症	11	1767
水痘 (入院例に限る)	10	348
梅毒	196	10162
播種性クリプトコックス症	2	143
破傷風	2	61
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		91
百日咳	103	1566
風しん		5
麻疹		28
薬剤耐性アシネトバクター感染症		5

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

## ●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ <sup>6)</sup>	2520	0.51
新型コロナウイルス感染症	25985	5.28
RSウイルス感染症	1869	0.60
咽頭結膜熱	923	0.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6500	2.08
感染性胃腸炎	8990	2.87
水痘	403	0.13
手足口病	25143	8.03
伝染性紅斑	667	0.21
突発性発しん	865	0.28
ヘルパンギーナ	2249	0.72
流行性耳下腺炎	136	0.04
急性出血性結膜炎	8	0.01
流行性角結膜炎	315	0.45
細菌性髄膜炎 <sup>7)</sup>	15	0.03
無菌性髄膜炎	25	0.05
マイコプラズマ肺炎	675	1.41
感染性胃腸炎(ロタウイルス) <sup>8)</sup>	6	0.01
インフルエンザ(入院患者)	53	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1838	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

## ●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、福井、岐阜
新型コロナウイルス感染症	▼	宮城、岩手、山形
RSウイルス感染症	▼	山形、宮城、新潟
咽頭結膜熱	▲	新潟、群馬、鹿児島
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、茨城、福岡
感染性胃腸炎	➡	大分、福井、石川
手足口病	▲	富山、宮城、愛媛
伝染性紅斑	▲	東京、青森、神奈川
ヘルパンギーナ	▼	宮崎、山形、鹿児島
流行性耳下腺炎	➡	大分、宮城、山形
マイコプラズマ肺炎	▲	埼玉、福井、京都

## ◆エムポックス：アフリカ地域

8月14日、WHO事務局長は、コンゴ民主共和国およびアフリカの多くの国々で増加しているエムポックスの急増が、国際保健規則(IHR)の下で最高レベルの警報である「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC; Public Health Emergency of International Concern)」に該当するとした。

※第37週のデータはこちらをご覧ください。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/idwr/IDWR2024/idwr2024-36.pdf>

